

会報誌

ぽぷら

2025 年
3 月 発行

『ジャンプ、ジャンプ、ジャンプ』



学校長 後藤 知行

昨年度の会報誌では、「ホップ、ステップ、ジャンプ」と題して、原稿を書かせていただきましたが、今年度は、「ジャンプ」×3としました。今年は、私と一緒に陽北中に入學した特別支援学級三年生七名が卒業しました。

三年生の心と体の成長は、ホップ、ステップ、ジャンプの、まさにジャンプの年であったと感じました。さまざまな行事で学校のリーダーとなり、一・二年生を引っ張っていました。一・二年生は、それを追いかけて立派に成長している真ただ中です。

また、今年は、私にとって念願だった、東京方面への宿泊学習を引率することができました。

ここでも、約束を守り、メリハリをつけた行動ができるスマイルさんに成長を感じました。水族館、東京の街並み、そして科学の最先端を見て触れることができた未来科学館は、良い思い出となったことでしょう。

新しい取り組みとして、地域学校園での交流活動が始まりました。次年度も、より小中の接続がスムーズになるよう、交流活動も進めていく予定です。

今後とも、すべての子どもが笑顔で活動できる共生社会に向け取り組みまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

「切れ目ない教育支援」と「最適な学びの場」を目指して

本校の特別支援教育は、すべての子どもたちが、その能力を最大限に伸ばし、社会で活躍できる人材へと成長することを目的として諸活動に取り組んでいます。

幼児期から生涯学習に至るまで、子どもたちの成長段階に応じた適切な支援を提供するために、個別的教育支援計画の作成や小学校・高

等学校との引継ぎ、保護者・関係機関との連携を図っています。また、特別支援（スマイル）学級やかがやきルームでは、多様な学習機会の提供や安全で安心な教室環境の整備、個別の学習指導などを行っています。このような環境で活動する子どもたちは、自分の能力を伸ばす「最適な学びの場」で「切れ目ない支援」を受けることができています。

このように、子どもに合った最適な学びの場を選び、切れ目ない教育支援を受けるためには、「その能力」に気付くことがとても重要となります。

例えば、家庭でのルールや約束を守らない子やテストの点数が思わしくない子に対し、「ルールや約束を守りなさい!」「勉強をしなさい!」と言っても、解決には相当な時間を要するでしょう。少し視点を変えて、「なぜ守らなかったのか」「どの教科が苦手で、何が分からないのか」を考えると解決への糸口となります。

子どもの発言や行動には、すべて理由があり、背景があります。その「なぜ」や「どうして」に寄り添い、一緒に考えることが、その能力に気付く一番の近道であり、最適な方法であります。

子どもたちの能力に気付く、最適な学びの場を選択することが、これからの社会での活躍に大きく関わります。一人でも多くの子が活躍できることを願い、これかも、「切れ目ない教育支援」と「最適な学びの場」を目指したいと思えます。